



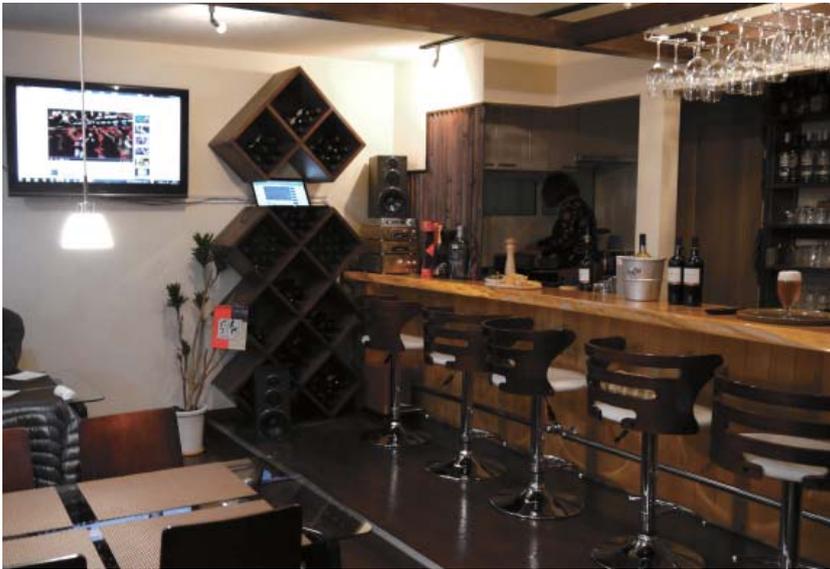
さとぶん通信

(株)北海道新聞 佐藤販売所
佐藤 優憲
札幌市西区八軒五条西 1-1-4
フリーダイヤル 0120-615-701
TEL:611-5701 FAX:643-4347

ぜひ行ってみたい! 八軒の名店 No.01

Café & Bar MOAI

MOAI (モアイ)
西区八軒 5 条東 5-2-12 011-792-5150
営業時間 (日曜定休)
11:00~15:00、17:30~24:00 P 5 台



←木の落ち着いた雰囲気での食事は癒しのひととき



↑赤い看板が目印。チリ出身イケメン店長のセバステアンさんが食事を盛り上げてくれます。

いつも北海道新聞をご愛読くださり、誠にありがとうございます。11月下旬、そろそろ忘年会シーズンでしょうか。今回は幹事様必見! 八軒の名店紹介第一回です。

赤い看板が目立つ店、こちらは カフェ&バル Café & Bar モアイ MOAI です。色々な雑誌にも紹介されているのでご存じの方も多と思います。とてもオシャレで落ち着いた大人の雰囲気が漂うお店です。チリ人家族で昨年 10 月にオープン、様々なイベントにも出店しており、29 日からのミュンヘンクリスマス市にも出るそうです。本場ラテン料理は絶品! 日本人の口にも合います。ワインもチリから直接美味しいものを仕入れています。

チリの公用語はスペイン語。という事で、行ったときに試したいスペイン語講座! まず、一般的な挨拶は ¡Hola!(オーラ)。意味は英語のハローと同じです。「ありがとう」は Gracias.(グラシアス)。「どういたしまして」が De nada.(デ・ナダ)。「さようなら」は ¡Adiós!(アディオス)。是非使ってみてください。ただ、もちろん日本語も通じます。とても気さくで話しやすいご家族なので、楽しく会話できるはずです。



←この日のメインディッシュ。魚介のスープはオリブオイルと白ワインでエビ、ムール貝、牡蠣貝、ガリリックをじっくり煮込んだもの。ガリリックフランスを浸して食べるのも絶品。



右はスベアリブ。3人前でのボリュームー単品注文は1200円です。

注目！地元の中学生の記事

(2013年11月20日掲載)

今回は夕刊のエンターテイメントのコーナーからです。八軒のお隣り、琴似を舞台に

制作された映画「茜色クワリネット」が、夕刊に取り上げられていました。

中高生で映画を作り上げたというのにとっても驚きました。来年3月劇場公開予定とのこと、春の楽しみが一つ増えました。



札幌市西区の琴似地区を舞台に中高生が制作してきた長編映画「茜色クワリネット」が完成し、17日に西区の劇場コンカリーニョで完成披露上映会が開かれた。撮影に協力した地域の人たちなど約500人が集まり、映画の出来栄を評価し合った。(塩野洋)

西区で完成披露上映会

NPO法人「北海道ミニマシアタ・札幌」の中島洋理事長が2005年から



完成披露上映会あいさつする監督の坂本優乃さん(左から5人目)

この夏の経験 忘れられない

制作を模索。コトニ夢映画制作プロジェクト実行委員会(久住邦晴委員長)を設立し、共に制作を担った。団体や企業からの協賛金に加え、市民サポーターを募集し、約700万円の制作費を集めた。脚本は一般公募で、出演者のほか、監督や撮影、音楽なども中高生が担当。プロの指導の下で5月から演技や機材の使い方などを学び、夏の撮影を経て完成にきつめた。

作品は子供の姿のまま、夢や希望のない大人になってしまう「大人病」がまん延している街で、中学生らがその原因とされる怪物を倒そうとする物語。

上映後、観客の中には涙を拭く人も見られた。琴似

大人と交わり成長 出来栄えに観客涙



「茜色クワリネット」の撮影風景。8月、琴似神社

て呉服店を営む角涼子さん(55)は「映画に登場する琴似の街並みと子供たちの生き生きした姿を見て、子育てをした思い出が重なり、涙が出た。見慣れている街だけど、映像と音楽で再発見することができた」と感想を語った。

中高生をサポートしてきた同実行委の久住委員長(62)は「みんながいい笑顔をしていた。今年の夏のことばきつと覚えていくだろう」と話し、実行委員の浜谷雅弘さん(56)は「中高生の熱意、エネルギーに驚いた。大人と交わり成長もした。この映画作りは教育的なプログラムでもあったと感じた」と振り返った。

監督を務めた坂本優乃さん(16)「札幌北高1年」は「貴重な経験をさせてもらい、感謝の気持ちでいっぱい。この夏のことば忘れられないと思う。全国上映を目指したいので、応援をよろしくお願いします」と話していた。

作品は12月8日回に函館港イルミネーション映画祭で上映される。来年3月には劇場公開の予定。

あらすじ

コトニ中学校に通う茜(佐藤楓)子さんは親に内緒で買ったクワリネットの練習場所(西野中3年)の家を訪ねる。そこで不思議な本を見つけた2人は夢の中に迷い込む。そこで2人は小学生時代に同級生だった藍(森田有紀)さん(札幌市立信濃中2年)の「助けて」という声を聞く。彼女は事故に遭い、今も意識不明で入院しているのだった。ある日、2人は新聞部員の大西(永井)君(札幌北高2年)と出会い、子供の姿のまま、夢や希望のない大人になってしまふ「大人病」が街にまん延していることを聞かされる。その原因は開拓時代から子供たちの夢を食べて生きる怪物「トニ子」。今は眠ったままの藍を助けようと、トニ子を倒そうとする。

今回は「漢字クイズ」、「頭の体操」、「防犯情報」はお休みいたします。ご了承ください。